

第170号

ほほえみの会

2011.3.13

3月11日、関東から東北にかけて大地震がありました。大津波の映像はかつて見たことのないものでした。見る見るうちに波が押し寄せて、大きな船とともに車が流され、家までもが流される。一瞬にして町が消え、人々の生活が失われてしまいました。原発の放射能漏れも深刻です。信じられない光景です。が、現実です。被災された皆さん、また同じ病気で治療されている皆さんに心からお見舞いを申し上げます。特に静岡県民にとっては人事ではない出来事です。

人生には思いがけないことは付き物です。子供の病気も同様です。現実を受け入れて共に手を取り合って病気と闘っていきましょう。

今年は卯年。うさぎは上り坂を上手に登っていくことから、難事があっても物事は全てがよい方向に向かうといえます。信じましょう。

<187回 1/9 ほほえみの会>

堀越医師、渡辺医師を含め6名の参加でした。

▽ 3歳男の子、重症複合型免疫不全。慢性のGVHD(拒絶反応)で肌あれがひどく、お尻をお湯で拭いてやると大泣きをする。薬を増やして少し良くなったが、食事ができず点滴で栄養を摂り、薬も入れている。状況が好転しないのがつらい。

小学2年の兄の同級生が脳腫瘍で亡くなった。自分の子供が生きていること、笑っていることに感謝する。入院生活をもっと楽しいものにしたい。

<188回 2/13 ほほえみの会> 3名の参加でした。

▽ 生後5ヶ月男の子、急性骨髄性白血病。産まれてすぐに異常が分かりこども病院に入院した。一度、退院をしたが定期的な検診で再び異常が分かり、再入院して化学療法を始めた。家が遠いのでコアラの家にいるが、1ヶ月しか入れないので近くにアパートを捜さなくてはならない。長年、子供が授からずようやくできた子供なのでショックも大きい。合併症もあり、今後の発育が心配。また、県の東部地区には大きな病院が少なく今後の医療にも不安がある。

<189回 3/13 ほほえみの会> 6名の参加でした。嘉数医師は地元沖縄の病院へ移られるということです。

▽ 1歳6ヶ月、男の子。急性リンパ性白血病。風邪だと思いかかりつけの医師に診て貰った。翌日、血液検査の結果を見てすぐに市民病院を紹介してくれ、そのままこども病院へ。

4歳の姉がいるが近くに住む祖母に面倒を見てもらっている。入院している子は面会から帰るときに泣く。また家では、夜に母親がいなくて寂しいと姉が泣く。ともに辛い。

抗がん剤の副作用で髪の毛が抜け、血圧も上がっているが、プレイルームで遊び、笑顔が見られるようになったのでほっとしている。

▽ 1歳7ヶ月、男の子。肝芽腫。お腹が膨らんでいたのが1歳半検診で話したところ、触診で硬いものがあるということで総合病院へ。エコー検査でこども病院へ。

いまだに信じられない。小学1年の姉がいて児童クラブに入れようか、面会を早く切り上げようかいろいろと悩んだが、結局、遠くの祖母に来てもらって面倒を見てもらっている。

抗がん剤治療を始めたが下痢が続き、白血球も下がっている。個室から出られないのでストレスが溜まる。同じDVDを何回も見ているが飽きてしまい機嫌が悪い。何をして遊んでやればいいのかわからない。

出席者からは、病院にチャイルドライフスペシャリストがいるので相談したらどうか。また、子供にとってはどんな玩具よりも母親の笑顔が一番いいのではないかと。という話がありました。

次回 は4月10日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>